

「出題の意図」

選抜区分	平成31年度（選抜区分：一般選抜） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：小論文、集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>1. 小論文における出題の背景と求める能力</p> <p>今年度もこれまでの試験と同様に、次の三つの点、すなわち（1）地域創生やまちづくりを考えるうえで重要な示唆を有する文章であること、（2）地域創生学群が学生に育てたいと考えている能力について関連する内容を有していること、（3）一般選抜であることを考慮し、一般的かつ平易な文章であることを出題文の選定基準とした。結果、熊坂元大（2016）「環境問題を「道徳的に考えること」を考える」（岩波書店）を出題文とした。</p> <p>設問は、「以下の文章を読み、環境問題を道徳的に考えることはなぜ重要なのか、筆者の考えを500字以上625字以内でまとめなさい」とした。設問の意図は、本文の内容をしっかりと把握する読解力を持っているか、また、その内容をきちんと論理立てて記述する能力を持っているかを見ることにある。加えて、正しい日本語を使うことができるかどうか、また一定の語彙力（漢字能力を含む）を有しているかどうかを評価のポイントとした。</p> <p>2. 解説</p> <p>解答では、以下のことを十分に理解しているかどうか重要であった。それは「環境問題を道徳的に考えることの重要性は、人々が道徳的に考えようとするほど自らの行為や考えを省察する機会となり、その結果、人々は再帰的に道徳的なることで環境問題に対する真の取り組みがなされるようになる」ということである。設問文の論理展開は、筆者の主張のように見える前半部分を後半で否定するという形になっているため、全体の内容を理解していないと誤解し、誤った答案を導いてしまう可能性があった。従って本文全体を俯瞰したうえで、その内容を理解するだけの読解力が求められていた。</p> <p>解答では、筆者の言わんとしているメッセージを十分に読み取り、その根拠も含めてしっかりと内容をまとめたものを一定数みることができた。そうした解答には高い評価を与えている。</p> <p>地域創生学群は実践だけでなく理論にも重きを置いている。そして理論は文献等を通じて修得することになる。受験生はこのことを理解し、理論の習得に必要な読解力を身に付けて入試に臨んで頂きたいと考えている。</p> <p>3. 集団面接における課題の出題意図と求める能力、および留意点について</p> <p>今年度の面接試験では、受験生の発想力、および想像力を評価の重要な</p>

ポイントとした。単に他の人の意見をまとめたり、また司会役として議論を進行したりするのではなく、ユニークで、かつ優れたアイデアを限られた時間の間に発想し、提案することができるかどうか、またそれを他者との円滑なコミュニケーションを通して、より良いものにしていく力を有しているかという点が評価の大きなポイントとなった。

受験生の中には、課題の意図を理解し、また一般常識に基づきながらも優れたアイデアを導き出す人がおり、そうした受験生には高い評価が与えられた。一方で、課題の意味を理解せず、またグループの議論を誤った方向に向かわせてしまう受験生も散見された。こうした受験生は低い評価となっている。ちなみに、そのような受験生によってグループ全体の議論が低迷した場合でも、面接官は個々の受験生の能力を見ているため、グループとしての討論の出来不出来が個々の受験生の評価に影響を与えることはない。あえて言うならば、もしグループの議論が誤った方向に行きそうになった場合に、そうした流れを修正するだけの能力や積極性を示すことができれば、評価は高いものになる。この点は今後の集団討論試験においても踏襲されるものなので留意されたい。